



総題 「ローマの信徒への手紙」における贖い

SDA聴覚しょうがい者友の会教材部

第4課 信仰によって義とされる

森 博光

2010,7,17 ~ 2010,7,23

はじめに 7月17日(土曜日)

ガイドにあるように「今週から、・・・基礎的な主題である『信仰による義認』』についての学びです。信仰による神の義は、全人類に与えられた神からの恵みです。主の十字架という信仰の原点に立つチャンスです。ルターは「信仰義認」の真理を発見した時こう叫びました。“私は新しく生まれ変わり、開かれた門を通過して天国に入った！”あなたもこの確信を自分のものとされますように。

1. 律法を実行すること 7月18日(日曜日)

ニュートンは万有引力の法則を発見しました。それは彼が発明したのも、造ったのもありません。もともとあったものを発見したのです。ものが正しい順序で動くために法則が支えているのです。鳥が空をいつでも飛ぶことができるのは、鳥の中に飛ぶためのしくみとそれを生かし出す鳥の命の法則があるからです。多くの法則は私たちの意志よりも強いのです。目に見える事柄(ありさま)はその奥に法則が働いています。このローマの信徒への手紙を書いた「パウロ」も重大な法則を発見しました。彼の発見はこうです。

1. 人の中には「思いの法則」があり、善をしようと欲する。
2. 人の肢体(肉体)の中には「罪の法則」があり、悪がいつも共にある。

つまり人は善を欲するが、人の中には罪の法則があり、罪を犯すということです。そして「律法」は、あなたや私の内にあるその罪の法則を指摘する働きをします。この法則がある限り、神の前における人間の姿は、たとえ律法を実行しようとしても「欠点と罪責ばかり」が目立つだけなのです。

2. 信仰と義 7月19日(月曜日)

私たちの全ての問題の根本には罪があり、それは神さまとの関係が壊れていることからきています。しかし神様は私たちの罪の解決のため、イエス・キリストの十字架による救いの道を備えて下さいました。しかし、すべての人が自動的に救われるものではありません。イエス・キリストを信じる信仰によって救われるのです。神様の恵みにより救いの道は完成していますが、聖霊による助けがなければ信仰を得ることは出来ないからです。

ルターは修道院生活で15年間苦しみました。それは救いの確かさを得ようとして、断食や祈り、苦行をしつつ確証をつかむための戦いでした。しかしルターの心は、ますます不安に満たされ、教会の教えを忠実に守れば守るほど窮地(逃げられない立場)に追い込まれて、手も足も出ない絶望状態に立たされてしまいました。そのとき修道院のシュタウピッツ院長はルターにこう言いました。「救われているかどうかわからないときには、キリストが十字架のうえで、あなたのためにお受けになったあの傷を見あげなさい」このことがきっかけとなり、聖霊の助けが与えられ、彼は救いの確証の光を受けることができたのです。

3. 恵みと義認 7月20日(火曜日)

義認とは、神の一方的な恵みによる決定です。私たちは主を信じた瞬間に、すべての罪を赦

され、神から永遠の命にふさわしい者(義人)と認められます。これは恵みであり神からの好意によって頂けるものです。義人であるには二つのことが必要なのです。それは・・・

罪がないこと。 義(善・愛)を実行するすばらしい人生を送ったこと。キリストの身代わりが、この二つをあなたにもたらしめます。

自分を責める時、人に責められる時、人は深く悩みます。義認の恵みはこの深い悩みからあなたを解放します。どんなに人の声があなただを責めても、神があなただを義としておられるのです。また私たちは自分の人生に満足できず悩みます。しかし神は私たちをこの地上で義人(すばらしい人生を送った人)と評価して、私たちの人生を深いところで受け入れ続けて下さるのです。

4 .「神の義」 7月21日(水曜日)

行いによって救われようとする考えは、まじめな信仰に生きようとする人たちに共通する姿です。戒律を厳しく守る、難行苦行を重ねる、ひたすら座禅を組み無心の姿になる、布教活動にあらゆる時間をささげて献身するなど信仰的に見えてもこれらはすべて「信仰という名をかぶせた人間の業」です。神様の恵み、贈り物としてただで救いが頂けるよりも、これをしてあれをしたならば救いが頂けますよとなすべき業が命じられた方がわかりやすいし、努力目標ができて頑張りやすいのです。しかしそれは「下から上に向かう」人間宗教の姿です。

人間の努力による救いは「階段を昇る宗教」です。良い行い、精神修養、宗教的熱心さなど、とにかく下から上にせっせと登る宗教です。上に登れば休みが待っていると考えているのです。地上381メートル、102階にある展望台までエンパイアステートビルを駆け上がる競技が毎年開かれているそうです。けれども天国への階段を下から上に駆け上がることができる人などは「一人もいません」。イエス・キリストによる救いは、「高速エレベーターの宗教」です。高速エレベーターに乗れば、そのまま神の御国に直行できるのです。私たちは御言をしっかりと味わいたいと思います。「イエスを信じる者を義とされるのである」(ローマ3：26)。そしてそれは「信仰の法則によってである」(ローマ3：27)。

5 . 信仰と行い 7月22日(木曜日)

ある人が熱心に聖書を読み祈り、神様にかなう信仰生活をする努力をしました。しかし肉体の深いところに潜む本能にいつも打ち勝てなかったこの人は、パウロの「救いは行いではなく、信仰によって」との話を聞かされ、「救われた!」との確信を持ちました。安心と喜びに満ちた何年かを過ごしましたが、行いに対しては無関心になり、罪に対する責任感もなくなってしまいました。そんな中でも心の奥底では、良心の訴えがありました。「それが本当の救いなのか」と。そして改めて聖書を調べました。ヤコブは「信仰があると称してももし行いがなかったら、なんの役に立つか。その信仰は彼を救うことができるか」(ヤコブ2：14)、またイエス様は「わたしにむかって『主よ、主よ』と言う者が、みな天国にはいれるのではなく、ただ、天にいますわが父の御旨を行う者だけが、はいるのである」(マタイ7：21)とあり、行いが伴わなければ救われないとなっている。こうなるとヤコブとパウロが喧嘩になり、パウロとイエス様とも喧嘩になる。

イエスにいけば救がないし、パウロにいけば救があることになる・・・。結局この人は20年間煩悶(もたえ苦しむ)しながらついにパウロのいう「行い」は「信仰の従順」(ローマ1：5、16：26)の従順が「行い」であることを聖霊によってはっきりと教えられ、心に真の解決と喜びが与えられたのでした。

これはとても大切な気づきであり霊的な経験です。ここがローマ書の勘所(つぼ)ですね。今期の学びで私たちもこのような祝福(理解)に導かれたいものです。